

ろく然も肥え太りて倦怠疲勞を感ずる如き人は早  
く注意して其の尿を検査すべきなり、且婦人小兒  
の虛弱性の者は冬季は寒冷に當るを防がんが爲に  
腰部腹部に厚き毛布を巻きて此の病の發生を防ぐ  
べく殊に平生運動不十分にして美味のみ用ゐ安逸  
に耽る上等社會の婦人方には此の病の割合に多き  
由なればかへすくも各自々豫防策の肝要ならん  
と語り續けられたるまゝ、已れ一人聽き置くも惜し  
ければとかくなん。

“Fröhliche und Mäszigkeit sind die besten Arzte.”

嬉樂と適度とは最良の醫師なり



雲の上

●東宮の東北御巡遊 皇太子殿下には來る五六

月の交を以て御見學旁々群馬、長野、新潟、青森  
宮城の各縣下へ御巡遊あらせらるゝやにて目下大  
迫待従、錦小路御用掛等以下數名は同地方へ出張  
檢分中の由なれば其歸京の上行啓期日も御決定相  
成る可き筈なりと承はる。

●東宮妃殿下の御着帶 皇太子妃殿下には昨年

九月御妊娠あり同十一月内々御着帶の御儀あらせ  
られしが其後日増に御健勝に渡らせ玉ひ先月十  
五日午前九時、青山東宮御所にて御吉例の御着帶



式を行はせられたる由にて、當日は前例に據らせられ、御近親鷹司公夫妻より御帶を進め奉り、參賀の人々に御祝酒を賜りたりと承る。

● 通宮の乳母車 通宮殿下には最早や乳母車の御乗用差支なき迄に御成長あらせられしに付、先月十日を以て調度局より、特製の乳母車一輛を御送致に相成りし由承はる。

● 常宮繪畫御師範 常宮、周宮兩内親王殿下には女流の畫家野口小蘋(親)氏を召させらるゝ事となりたる由にて、同女史には先月を以て常宮御用掛を仰せ付けられたりといふ。女史の名譽此上なき事といふべし。

● 小松宮殿下の御出發 英皇戴冠式に我が天皇陛下の御名代として、御臨席せらるべき同宮殿下には、隨行員一同と共に、愈先月十九日午前

八時三十分新橋發列車にて御渡英の途に就かせられしを以て、各皇族方を始め各大臣、樞密顧問官、海陸軍將校、各省高等官一千餘名は、同停車場に奉送したり。而して殿下には正午横濱解纜の獨逸郵船アルベルト號に搭せられ波濤萬里の長程に上り玉ひぬ。因に記す、同郵船は北獨逸ロイド會社の新造船にして總噸數一萬千六百噸登簿噸數六千五百八十九噸、又隨員は左の十三氏なりと

- 式部長子爵 三宮 義胤 宮中顧問官侯爵 中山 孝磨
- 調度局長 長崎 省吾 式部官 丹羽龍之助
- 待從武官海軍大佐 井上 良智 陸軍砲兵中佐 柴 五郎
- 元帥副官陸軍步兵中佐 黒澤源三郎 御附武官陸軍步兵少佐 平君弘太郎
- 大學教授醫學博士 土肥 慶藏 陸軍歩兵少尉 西郷 從德
- 膳部長 大谷木長通 式部屬 高橋 勇治
- 宮家從 阪井 孝

● 學事集會

● 女子高等師範學校 に於ては 先月八日に、

本科生徒の入學式あり同廿八日には地理歴史、及び家事専修科生徒の入學式ありし由▲教授安井君子氏は今回舎監を免ぜられて教授専任となりたりと▲ヒュース嬢は本月より九月まで一學期間四年生の教育講義を囑托せられしとのこと▲本月二十八日地久節の佳辰に於ては例年の通り如蘭會總會を開くべしといふ▲本年卒業式に於ける菊地文部大臣演說中の一節は以て同大臣女子教育の方針の存する所を見るべきか、曰く

女子教育の事は其學校に於ると家庭に於けるとを問はず女子の職分として最適當なるものにて寧ろ女子の天職とも稱す可きものなり抑も女子と男子とは固より尊卑の別あることなしと雖も各其本分ありて互に相補ふものなり女子が男子と同様に社會競争の渦中に立て同一の職業を執るは社會の

或る情勢に於ては避くべからざるをあるべしと雖此の如きは國家の爲慶すべきとにわらず幸に吾邦に於ては未だ此の如き必要を見ず故に我邦の女子教育は女子として世に立つに必要なる體育と徳育と知育とを授くるを以て足れりとすべし所謂「リベラルカルチエアー」即寛容なる練磨に止まり女子に適する技藝教育の外は専門の教育に入るとを要せず要するに女子教育は女子をして家庭の主婦となり良妻賢母として其本分を完からしむるの準備を爲すにあり

▲本年卒業生の人名は左の如し

文科

- |        |    |    |       |    |    |
|--------|----|----|-------|----|----|
| 鹿兒島縣士族 | 池袋 | 森賀 | 香川縣士族 | 林  | 節  |
| 大阪府士族  | 岡田 | 折枝 | 熊本縣平民 | 大石 | つる |
| 宮城縣士族  | 大津 | 滿  | 福井縣士族 | 加藤 | 羅  |
| 北海道士族  | 鎌田 | キケ | 愛知縣平民 | 館  | つれ |
| 熊本縣平民  | 田島 | マス | 石川縣士族 | 榎尾 | 薰  |

香川縣士族 國越 八重  
 慶手縣士族 工藤 しげ  
 京都府平民 松宮 寛  
 東京府士族 小島 ヌツ  
 長野縣平民 手塚 トツ  
 長野縣平民 篠原 みやの  
 福島縣士族 鈴木 ゆき

理科

富山縣士族 生田 スハ  
 福岡縣士族 渡邊 鶴  
 秋田縣士族 川井 直  
 山梨縣平民 瀧澤 ミチ  
 山口縣士族 中井 茂  
 香川縣平民 保井 コノ  
 茨城縣平民 佐野 せい  
 山梨縣平民 志村 達  
 石川縣士族 廣瀬 他美

撰科

東京府平民 高原 トミ

地理歴史專修科

宮城縣士族 伊藤 ナカ  
 新潟縣平民 五十嵐 せい  
 東京府平民 西本 ユキノ

京都府平民 窪田 八重  
 香川縣平民 山川 郁  
 宮城縣士族 小々高 操  
 大阪府平民 江川 さめ  
 香川縣士族 寺島 トク  
 鳥取縣平民 森岡 タケ

大阪府平民 奥山 春  
 秋田縣士族 川井 タマ  
 熊本縣平民 甲田 つぎ  
 和歌山縣士族 中尾 幾重  
 福島縣士族 中條 ひろ  
 富山縣士族 寺本 登美子  
 宮城縣平民 菊池 教世  
 山梨縣平民 下瀬 龍乃

新潟縣士族 伊藤 たま  
 北海道平民 波佐谷 三枝  
 宮城縣士族 朴澤 しげ

東京府平民 東條 ハル  
 山梨縣士族 加島 さき  
 茨城縣平民 高橋 さみ  
 大分縣士族 田北 ヨネ  
 山形縣平民 土屋 いと  
 山口縣平民 中井 あや  
 大阪府平民 村瀬 ミチ  
 廣島縣平民 山田 トシ  
 香川縣平民 赤木 タネ  
 石川縣平民 荒木 津ね  
 廣島縣平民 澤田 ミサオ  
 長崎縣士族 清河 テル  
 新潟縣士族 三宅 ます  
 静岡縣平民 須田 かこ

●東京音楽學校生徒募集  
 ●東京音楽學校にては  
 今年甲種師範科官費生三十名を募集せり。入學志願者は願書に履歷書及戶籍謄本を添へて本月二十日までに願出づべしとなり入學規定は左の如し。

神奈川縣平民 小野 キヨ  
 香川縣平民 高橋 ハル  
 慶手縣平民 高橋 てい  
 福島縣平民 田崎 タカ  
 石川縣平民 中倉 はま  
 山梨縣平民 村松 ナチ  
 北海道士族 忍 まつ  
 長野縣士族 矢崎 あきの  
 香川縣平民 赤木 マス  
 長崎縣士族 佐藤 ソミ  
 石川縣平民 北野 ほん  
 長野縣士族 峰村 よし  
 福島縣平民 遠藤 キヨ

▲男女を問はず品行方正年齢十七年以上。  
 ▲師範學校中學校高等女學校(四ヶ年)の卒業の者に試問、唱歌國語若くは英語、体格を試験し其他のものに更に國語(讀書作

文) 數學地理歴史をも試験す。

▲甲種師範科生徒は授業料を免除し圖書樂器を貸付し學費さして一ヶ月六圓乃至八圓を給す。

▲入學試験は五月五日より始む。

▲詳細を知られたる方は四月八日の官報廣告を見るべし

因に記す、甲種師範科は卒業の後は、師範、中學高等女學校の音樂科教師となるものなり。

●英米公使の女子大學參觀 英國公使マクドナルド、米公使バックの兩氏は何れも夫人同伴にて、

先月十四日午後一時より小石川女子大學校を參觀したり、同校にては委員長大隈伯を始め委員、濫

澤榮一、蜂須賀、西園寺の兩侯爵三井三郎助、嘉納治五郎の諸氏も參校し、公使等は成瀬校長の案内にて英語教授法、及日本禮法其他二三の体操を

見、寄宿舎を參觀し、夫より講堂に於て米公使は先づ近時日本女子教育の進歩せるを賞賛し、歐米

に於ける女子教育の發達に就て一場の演説を爲し

終りて同校家政學部生徒の庖丁に成れる料理の饗應を受けたるといふ。

●大日本婦人教育會 先月廿六日午後一時より

鍋島侯爵邸に開會雨天の爲め園遊會の催しなかり

しも來會者無慮二百餘名會頭毛利公母堂副會頭鍋島侯爵夫人の挨拶及び毛利男爵の會計報告ありて

後數番の能狂言を催し一同に茶菓を呈し撮影して會を終れりといふ。

●國語調査會委員任命 先月十一日左の任命あり上田氏はそが主事を命ぜられたり。

國語調査會委員長被仰付 正三位文學博士男爵 加藤 弘之

東京帝國大學文科大學教授文學博士 井上哲次郎

東京高等師範學校長 嘉納治五郎

文部省普通學務局長 澤柳政太郎

東京帝國大學文科大學教授文學博士 上田 萬年

東京帝國大學文科大學教授文學博士 三上 參次

文部書記官 渡部董之介

東京帝國大學文科大學教授文學博士 高橋順次郎

國語調査委員會委員被仰付

正四位文學博士 重野 安釋

正五位 德富猪一郎

從五位文學博士 木村 正辭

從七位文學博士 大槻 文彦

從三位 前島 密

● 試験問題漏洩 仙臺市高等女學校入學試験問題

を師範學校附屬小學校に洩らし講習せしめたる

こと、發覺し教育者間の大問題となり、各學校長

は協議の上談判委員を選挙したりとの報あり面白

からぬことなり。

● ヒューズ嬢の談話 と題して、萬朝報に載せ

たるもの、面白み節あれば轉載しつ。

△勉學 は直接教師に就てするは一日僅に二時間、他は隨意に

大學の、又は分科の、圖書館に入りてすれど、午前のうち三時

半ほどは熱心に各自の室に於てす△食事 朝起るは七時にて、

食事は朝が七時、晝が一時頃なり、英國人は通例朝釜に肉を交

へされど麩、バター、シヤムの外に少許の肉あり、晝は其外に多

量の牛乳を加ふ、三時半より四時頃を「茶うけ」の時とし、各

自隨意に食堂に下り珈琲、麩などを取る△茶話會 總て大凡の

有様が談笑の間に知識を得る仕組にして、己が室に茶菓を供へ

教師や仲よき生徒を招くと多し、教師も折には同卜方法にて生

徒を招き、此時を以て男女兩生徒を接近せしめ自ら其中に立て

大に彼等の知識を發展せしむ△運動 午後には戸外の運動も有

り、テニス、ホケー、クリケットなど盛なり△訪問 校外の朋

友又は大家を尋ねて社交的の知識を養ふも彼等の重なる修業法

の一なり、雨天と雖かひなく出行きてひるむとなし△晚

餐と討論會 晚餐は彼等の最も樂しとする食事なり、素輕き衣

服に更めて娛樂しつ、二三時間を費やして食を終り、全校又は

組々に討論の會を開く、其盛なるは全く議會の体裁にして甲論

乙駁面白くして且有益なり△就眠 の前一時間は又勉學し、終

れば又々茶菓を以て親友と會し、快く談笑なごして後に寢に就

く△一年中に勉學する時 は廿四週より三十週にして他は悉

社交上の知識を發育するに勉む△夏期休暇 の時などは特に隊

を作りて僻地に行き 保養の中に社會と天然とを學ぶなり△學

費 寄宿の料は一年六七百圓にて足る學校もあり高きは千二百

圓程にも達す。

● 加納子爵の美舉 全子爵には先月十日、二葉

幼稚園の貧兒四十三名に、一日の快樂を與へんと

て、大森に於ける子爵邸に招き、主人を始め夫人

子息令嬢等に至るまで、皆此幼兒の中に打ち交りて種々の響應遊戲等をなして、彼等を樂しましめたりといふ、近來の美舉といふべし。

●南蔡文庫 麻布飯倉町なる徳川侯爵邸にて、祖先頼宣公よりして代々傳はりたる珍書寶物等數しれぬ許なるを、只だ秘藏し置かんよりは廣く視覽せしめて、世を益するに如かずとの趣旨より、同邸内に文庫を設立し、先月十三日そが開庫式を舉行せられ、紀州出身の紳士數百名を招きて響應せられたりといふ、我國華族たちの皆此美舉に倣はれんには此上なき公益となるべし。

●好學園女子寄宿舎の設立 帝國教育會の千田時次郎氏は、近時都下の女學生中親戚知己の家に寓し又ば自炊をなす等と稱して自儘の生活をなし甚しきは下宿又はあやしげなる素人下宿に起臥し

往々誘惑に陥るものあるを憂ひ、麴町區三番町六十八番地に好學園と稱する家族的な女子寄宿舎を設け寄宿生をして都下の諸學校に通學せしむる傍園内にありて家政的の訓練を與へ、且つ夜間には「教育」、「兒童心理」、「實踐倫理」、「家事衛生」等に關する講話をなすとの事なり。詳細は、時を得て參觀の後報導する事とすべし。

●家事講習會 神田小川町一、女子文學會内に新設の同料は入會者既に定員に達せしも大教場を得たれば此際尙若干名の入會を許すといふ、講師は女子高等師範教授松本文學士「兒童教育」同教授佐田鎮子（衣食住、家事教授法）同教授谷田部順子（裁縫教授法）同教授岩川理學士其他學士數名なるよし。

●女子文學會 神田區小川町一番地に新設の同

會は一般、女子教育の隆盛につれて入會者頗る多しといふ、會長は木村博士、顧問は井上、小杉兩博士にして講師には井上賴國(枕草子)尾上文學士(三鏡)大川茂雄(文學史、制度)吉丸文學士(十訓抄、女子風俗史)藤井靜子(作文)小杉博士(有職、源語)佐々木信綱(古今集)南茂樹(文典)新村文學士(言語學)木村博士(万葉)畔柳文學士(文學研究法)等の諸氏なるよし

●筆の雪

●女子國語讀本 落合直文氏著述の女子國語讀本に怪しからぬ記事載せありとて、例の萬朝報攻撃の鋒を磨けり、若し事實ならば随分面白からぬこと、云ふべし。

●去々月卅日 福井市火を失し三千戸を焼さ拂ふの慘事あり、先月十日頃、東都は櫻花既に散り

て名残も留めざる頃俄然として寒氣大に至り、國內所々に降雪の甚しきを見たり、今同月十一日東京に達したる電報により、各地の寒氣及被害の一斑を擧げんか

●降霜被害 十一日静岡特發昨夜寒氣強く攝氏寒度計零度三に降り霜の爲め桑、茶も大損害を受け就中一番茶は半作の見込となり茶葉家恐慌を來せり

●京都の大雪 十一日京都特發昨朝來 俄に氣候變り寒氣非常なりしが昨日午後二時廿八分より細雨に霰を混して降り始め四時七分より降雪となり同五十分頻りに降り其後斷續九時三十分大雪となり本日午前零時四十分歇む(今又霰降り來る二時半)花笑ひ鳥囀づる時稀有の出來事にて明治廿五年四月十日午前六時十分より同八時三十分まで雪ふりたることありしも地上に積りしことは未曾有なりと古老も言へり

●神戸に霰降る 十一日神戸特發 昨日來春寒強く本日午後四時霰降り天候陰險なり

●青森の大雪 十一日青森特發 今日に至るも降雪歇まず

●山形の吹雪 十一日山形特發 昨夜吹雪降雪未だ歇まず今日山形警察署開署式を行ふ筈なりしも爲めに延期せり

●上州の降霜 十一日前橋特發 今朝降霜あり寒氣強し

●山梨縣の霜害 の如きは實況視察の爲め巡回



したる吉池農商務技師の談に依れば同縣下の霜害は實に豫想よりも甚敷就中東山梨、東八代兩郡の如きは最も慘狀を極め中には一望青緑を見る能はざる處もあり其損害總高は約二十八萬七千圓に達し數十年來未曾有の慘事なりと。嗚呼何ぞ本年に入りて天災の然かく、頻繁なる。

●露國の幼兒死亡率大なり 露國某地方廳の調査に徴するに、多くの州にては一年兒の死亡率は四五割を占め、處に據ては遠く之よりも登るものあり、醫師の報告に據れば此の原因は主として農民の無智なること、母親の田野に耕すが爲に幼兒の養育を怠るとに基き、尙子供附の乳母を雇うて子を養ふも其の一原因をなし、乳母の子は自然の結果として人工法を以て之れを養ふことゝなるが故に死にするもの、隨て多しとなり、但し此の點に

於ては、回教徒の露人中には、子は實の親必ず之を育乳せざるべからざる法律あるが故に、幼兒の死亡も割合に少く例へば某州に見るに回教徒の幼兒死亡率は一割四分餘に當るも基督教徒のは三割四分餘を占めたり。(婦人衛生雜誌)

●佛國人口益と減ず 佛國商務大臣の報告に依れば、佛國一昨年度に於ける人口は總計三千八百五十一萬七千九百七十五人にして、又同年度内の出産者は八十二萬七千二百九十七人、死亡者は八十五萬三千二百八十五人、結婚は二十九萬九千八十四件、離婚は七百五十七件なり、而して死亡數の出産數に超ゆること二萬六千人、人口益々減少の傾向あり、當分の處増加の見込は到底なしとのことなるより、本年度議院にては特別委員會を設けて其原因を調査せしむることゝし、右委員會

八十

は一月廿日第一回を開きたるが、其の時内閣議長  
 ワルデック、ルソー氏は演説して、右調査の結果  
 は追て法律として發布したき旨を説きたりとい  
 ふ。

## 地方通信

●高知より

(四月十九日)

1 y 生

◎都人はまだ櫻狩にいそがはしき折柄と存じ候へ  
 ども、當地は桃散り櫻散りて、もはや花のおもか  
 げ無之、目に見るものは只青葉はかりにて、未だ  
 はとゝぎすの聲こそ聞こえね、潑漣たる初鯉は己  
 に市に上り申し候。

◎されば各學校も學年試験を終り、何れも皆新學  
 年の授業に取りかゝり候、其中、

◎高等女學校は去る廿九日卒業證書授與式を舉行

致し候が本科卒業生六十九名有之候。

◎今是等卒業生の今後の方向をもれ聞き候に、  
 校内の補習科に入學するもの三十八名、裁縫を專  
 修せむとするもの二十二名、家事に従事するもの

九名、女子高等師範に入學せしもの、女子大學に

入學せしもの、縣外に遊學せしもの、病氣のため

暫時保養のもの、各一名列有之由に御座候。

◎補習科とは本科の上にて設けられ、在學一ケ年の

後小學教員たる資格を得べきものに候。

◎今回この科を卒業せしもの二十七名、其内一人

の女子高等師範に入學せしものを除けば、他は何

れも小學教員たらんとするもの、及び己に教員た

りしものに御座候。

◎新入學志願者は年々増加いたし候が、本年は七

十名の募集に對し三百九名有之候、されば撰拔試

験により餘の二百二十餘名を拒絶するの止むを得ざる事と相成り候由。學校設備の不十分なる爲とはいへ、かく多數の生徒を收容し得ざるは、女子教育の爲め誠に遺憾千萬の次第に存じ候

◎然るに、もと縣師範學校教諭たりし横田久壽吉氏今春一月より成女學舎と云ふを設け、其欠を補

ひ居られしが、先月來縣視學池田永馬、縣屬北村浩諸氏又もや私立高知女學校といふを設けられ、

己に四五日前開校の運びに相成り候處、今回兩校合同の議熟し昨日合同式を行ひ本日より授業を始

め居り候。◎校長は前縣立高等女學校長たりし南部義壽氏にして學科は凡て縣立高等女學校と同等の程度とし

尙將來は大に其規模を擴張する由に御座候。◎教員は目下の處として舊縣立女子師範卒業生北

村いと子、東京渡邊裁縫學校卒業生前田松壽子、男教員横川某、之に當られ、尙女子高等師範出のひとにして現縣立高等女學校教諭西森元子、海南學校教諭佐竹右虎、其他の諸氏之を助けらるゝ、由に候。

◎生徒は現に百名近く有之候が、尙増加するやらの見込に候由、此校にして都合よく行かば、縣下女子教育のため誠に喜ばしき事かと存じ候。

◎當地氣候不順 去る十日前後の寒氣は意外に嚴しく、しぐれ時々降り來り、東北方には時ならぬ白雪をさへ見申候、故老の談によれば十數年來稀に見る處の寒氣なりと申され候、 以上

●廣島縣通信

(四月五日 通信生)

近來女子教育、非常に隆盛に赴き其教育機關とし

て小學校の膨脹するは言を俟たず、小學以上のものとしては師範學校女子部あり、高等女學校縣立のもの一校あり、共に廣島にあり、私立廣島高等女學校あり又めそむすと派の設立にかゝる廣島英和女學校あり(附屬幼稚園を設く)、又比婆郡吉舎に於ける私立高等女學校あり、世羅郡私立教育會の設立する世羅高等女學校あり、採安郡福山に私立女德學舎あり、これ亦高等女學部なるものを設く、幼稚園は英和女學校附屬の外、第五師團軍人の子弟を教育する濟美學校に附屬幼稚園あり、福山女子尋常小學校に附屬幼稚園あり何れも逐年生徒數を非常に増加しつゝあり。四月五日

### 新刊紹介

▲英文學研究 山縣五十雄譯註

既に發行せられたるもの三卷、曰くサツカレの白梅嬢、曰くナン、ドイルの荒磯、曰く英米詩歌集、註譯者の英文學に堪能なるは既に定評あり、譯文流暢にして、よく原文の意を寫し出せるさへあるに、雖字難句には一々丁寧なる註譯を附せり。英文學研究者の爲めには、無二の好著といふべし。

定價一冊廿五錢、發行所 東京神田區南甲賀町八番地 内外出版協會

▲愛國婦人 月二回

奥村五百子氏首唱の愛國婦人會の機關として出でたるもの、吾人は其健全なる發達を祈る(定價一枚三錢五厘、麹町區下二番町三七大日本女學會内愛國婦人發行所)

紙面の都合により寄贈雜誌の掲載を略せり。

會報

第七總會

明治三十五年四月二十日午後一時より女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會せり第一鈴にて一同着席先づ中村主幹開會の辭をべられ續て會務の報告あり次に幹事半數改選の投票をなし本田増次郎君の動物哀憐と幼児教育につき演説あり(説林欄に掲載)て暫時休憩せり此間参考品並に成績品縦覽第二鈴にて一同着席岡山秀吉氏の小學校手工科と幼稚園恩物との連絡につき實驗談あり余興として蓄音機數曲をなし隨意談話に移れり(此間茶菓)終に保姆合唱歌をなし午後五時三十分閉會せり

○本日の來會者は石井泰二郎君野本彌生八君毎日新聞記者教育時論記者實驗界記者女子高等師範學校生徒八名會員八十四名其他同伴者數拾名なりき

○幹事半數改選に付野口ゆか、羽田晴、小關せい、雨森劍の四氏退職し投票の結果野口ゆか、小關せい、和田くら、大島小春、雨森劍の五氏當選す

會務報告 第六年

自明治三十四年四月至全三十五年三月

一 集會度數

總會一度 常會四度 幹事會三度

幼兒發育研究組合會七度

一 客員會員數

客員總數二十二名 在東十八名 地方三名 海外一名

會員總數四百六十六名

男六十三名 在東四十六名 地方十七名  
女四百三名 在東二百二十五名 地方百七十八

一 雜誌發行のこと

一 幼兒發育研究組合は現在會員二十三名從來の如く毎月一回開會松本孝次郎氏及長瀬復三郎氏の講話ありたり其講話題目左の如し

兒童心理

兒童研究法を參考として五官及諸感覺の教育上に於ける注意及兒童特質に關する研究

育兒衛生

小兒の生理一般傳染病及救急處置

入會

東京の部

芝區新櫻田町一九星野方

小石川區大塚辻町一八東京市養育院内

同

牛込區辨天町四

牛込區袋町二二

本郷區元町二ノ三九

本郷區春木町二ノ二一

麻布區麻布永坂町一

八十四

須藤 つれ

安達 かづ

近藤 つるよ

近木 さし

山中 下枝

服部 作枝

土井 たま

大竹 みよ

本所區龜澤町一ノ一〇岩崎方

深川區東元町一

下谷區上根岸町八二

本所區相生町五ノ二〇

女子高等師範學校

同

京橋區築地上柳原町三

四谷區大帯町八〇西浦榮藏内

日本橋區駿町八

地方の部

鳥取縣八頭郡智頭村石谷傳四郎内

香川縣中多度郡普通寺町字下吉田

新潟縣中頸城郡大養村大字中柳町

東京府下北豊島郡南千住町六八伊東定吉方

上野國前橋市清心幼稚園

廣島市下流川町一四

香川縣三豊郡觀音寺町觀音寺女兒尋常高等小學校

同

至尾こま

前野さき

大久保雪枝

柳井つる

旗山榮治

小川ゆき

鈴木てる

西浦りつ

小林千年

石谷いし

勝田暢子

上野益三郎

伊東盛枝

杉浦ささ

廣重一枝

吉良むま

豊田せい

新橋 辻さく

清水 下田たづ

中澤ささ

越前國而谷鐵山三葉社宅

小石川區大塚窪町五

東京府第一高等女學校

深川區明治小學校

四谷區本村町三

香川縣三豊郡觀音寺町觀音寺

女兒尋常高等小學校

福岡縣久留米高等女學校

會費領收

自三十五年三月廿六日  
至三十五年四月廿五日

重松 綾子

吉田 かき

辻 きく

樋口 みわ

下田 たづ

大西 永太郎

福地 くま

保阪 ふさ

神田 十ゆん

櫻川 市子

林 てふ

吉田 まさ

岩崎 たづ

渡邊 すみ

小々高 みさな

廣瀬 たみ

下瀬 たつの

榎尾 かゐる

藤岡 さき

轉居

三寶縣四日市幼稚園

中澤ささ

一金拾 錢 三十五年 三月

八十五



一金壹圓	一金五拾錢	一金五拾錢	一金壹圓	一金壹圓二拾錢	一金壹圓二拾錢	一金壹圓五拾錢	一金六拾錢	一金五拾錢	一金六拾錢	一金六拾錢	一金六拾錢	一金六拾錢	一金六拾錢	一金六拾錢
至三十四年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年
三月	六月	九月	二月	四月	八月	三月	四月	三月	六月	七月	九月	四月	九月	八月

志賀	安達	貫	早川	近藤	相賀	大久保	松田	前野	玉尾	山中	中野	福田	山田	吉田	安藤	岩村	服部	福尾
かま	かつ	しげ	いし	つるよ	よし	ゆきね	とし	さき	こま	かさ	くれ	ふく	きみ	しう	たみ	あつ	たき	きく

一金五拾錢	一金五拾錢	一金五拾錢	一金參拾錢	一金參拾錢	一金六拾錢	一金六拾錢	一金五拾錢	一金壹圓拾錢	一金五拾錢	一金貳圓	一金壹圓二拾錢	一金三拾錢	一金壹圓	一金六拾錢	一金二拾錢	一金二拾錢	一金六拾錢	一金六拾錢
至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年	至三十五年
十一月	七月	八月	四月	八月	六月	四月	三月	四月	十二月	八月	四月	三月	四月	六月	七月	九月	五月	四月

八十七

丸山	桶田	小曾根	成瀬	近藤	牧野	淺岡	矢澤	齊藤	吉川	三宅	河合	清水	佐方	西村	服部	土井	山口	吉澤
かく	むつ	よし	きよ	はま	がね	はま	わさ	みね	さい	はな	ちよ	あい	鎮	た	さく	玉子	きよ	さも



